

校長室からこんにちは！

No. 7

3月6日

発行者 中田 禎二

最後の授業，そして夢

桃の節句が終わり、桜だよりが待たれる時候となってきました。どの学校でもこの時期は卒業式の練習に熱が籠って、学校全体にピリッとした空気が満ちてきます。

本校でも来週の金曜日（14日）その日に向けて、練習が始まりました。

卒業式は主役である卒業生にとって最後の授業です。そしてもう一方の主役は在校生です。この両者がこれまでの学校生活の集大成の舞台を創り上げます。子どもたちの一挙手一投足は国語・算数・理科・社会等の教科や行事等すべての学びの結実の表出です。

ですから私たち教員は、3月という月にはいっそう教科・教科外の指導に努めているところです。保護者の皆様もどうか「当たり前」が徹底できる3月となるようご協力をお願いいたします。

ところで、私は2年前本校に赴任した時、「子どもが夢を抱き夢を育む学校」をビジョンにし、子ども達に折に触れその言わんとすることを語って来ました。

でも今思うのです。Aちゃん、Bちゃんに、「夢は何？」と尋ねて「？」であっても、学びの道に残した足跡には小さな小さな夢の芽が芽吹いているはずだと。それに気付いていないだけなのだと。気付いたとしても具体的なイメージとならないのだと。それでいいではありませんか。何ゆえなら、AちゃんもBちゃんも自分だけの道を少しずつ一歩一歩歩んでいるのですから。

その「道」についての詩の一部は今年度の文集で紹介させていただきましたが、もし良かったらお父さんお母さん方もその行間に今のご自分を見出してみたいですか。私は皆さんにもいつまでも夢に向かって歩んでいただきたいと思います。その姿が子どもにとって無言の教育になると思うのです。

そんなに言うのなら校長はどうなんだと問われれば、恥ずかしながら、この歳でまだまだ心に温めている夢があります！「ワシは100歳まで生きるから」と平気でメールをよこした同級生の顔を思い浮かべながら・・・。

校長写真館

「世界一退屈な街」は見所満載…旅行業者はどこを見ているのやら？

題して「観光ガイドブックの隙間から！」

1. ドーハの中の日本「ドーハ日本人学校」
2. スリル満載のR/A
3. 古さの残る街並み
4. 土漠を直走るハイウェイ
5. のどかなワクラの漁港周辺
6. 土漠のオアシス「緑の農場」
7. タラップまでの「長距離バス」の旅「オールドエアポート」

ちょっとお耳を…

今朝も5時ごろお祈りの呼びかけが流れてくる。何度聞いても心地良い。外は夜明けの気配。そして、空には雲の姿が見え始め、徐々に明るさを増した空はオレンジ色とスカイブルーのコントラストに包まれる。時にその彼方に機影が現れる。

カタールに来させてもらったお陰で無意識が意識化した一例。

「見所はありません」と言われるカタールは「人間の感性に触れることのできる所」。

来て良かったと思う。